

地区研修・協議会報告

全体会議及び会長部門

●富田会長エレクト

さる4月29日、地区研修・協議会が開催され、当クラブから9名が参加しました。

地区研修・協議会は例年通り、全体会議と部門別分科会の2部構成で、全体会議では、安行英文ガバナーエレクトから、“CREATE HOPE in the WORLD”（世界に希望を生み出そう）というゴードン R.マッキナリーRI 会長エレクトの会長方針、並びに“Act with Integrity, Serve with Love, Work for Peace”（真心の行動、慈愛の奉仕、平和に貢献）という地区活動方針が紹介されました。

また地区の重点目標としては、①DEI は私たちそのものを映し出す文化として「社会的スティグマの解消」を目指し、地区及びすべてのクラブに行動を促す。②会員増強を推進し、新しいタイプのクラブの運営の仕方を創出する。③「平和」を基礎に活動する。④メンタル・ヘルスを考え、ロータリアン、地域社会のあらゆる人々に寄り添うロータリーを目指す、の4点が示されました。

RI とロータリー財団について三木ロータリー財団管理委員から説明があり、また、地区の戦略計画について、安行ガバナーエレクト、矢坂ガバナーノミニー、城ガバナーノミニーデジグネートの3名から説明がありました。その後、矢野パストガバナーにより、ロータリーの会員減少という危機を基にロータリーをデザインすることが述べられ、続いて、黒田次期危機管理委員長より危機管理について縷々説明がありました。

その後の会長部門分科会では、矢野次期地区財務委員長の地区予算の説明の後、安行ガバナーエレクトによる審議があり、予算が可決しました。また滝澤審議会代表議員から規定審議会の役割について説明がありました。

続いて、高瀬次期戦略計画委員長より、クラブのヴィジョンと戦略計画について説明の後、これについて、半田 齋ガバナー補佐エレクトを中心に、西播第2グループの4クラブでディスカッションがありました。

その中で半田ガバナー補佐エレクトより、12月開催のIM に於いて当クラブからも、古木・巨木と環境について発表するように要請がありました。また、4クラブ合同で、地区特別会計支援金を活用して、ウクライナ人のバレエ講演（当地区と神戸）での開催支援やIM 以外の合同例会の開催提案や、クラブでのメンタルヘルスの導入要請やRLI の参加、地区委員の参加要請などがありました。

地区・研修協議会会長部門分科会の報告は、以上の通りですが、私にとりまして、他クラブの会長エレクトとの交流を通じ、会長の役割を学ぶ貴重な機会となりましたことを併せて報告させていただきます。

クラブ管理運営部門

●片岡次期クラブ奉仕委員長

矢野宗司 RLI 委員会カウンセラーによるファシリテーションの実践がありました。パネルディスカッションに例えるなら、矢野 RLI 委員会カウンセラーがコーディネーター役、各ガバナー補佐の方々がパネラーとして、「例会マンネリを防ぐには」をテーマに意見交換がなされました。

一方向の情報伝達である「卓話」ではなく、あらかじめ決められたテーマについて、参加者全員の意見を引き出し、議論を広げ、最後には意見・議論を収束させて合意形成「腹落ち感」を生み出すものです。「腹落ち感」とは、各々が会議の目的と理由を深く理解しながら、あるべき姿を自ら描

くことができ、当事者意識を持てるレベルで納得している状態を指します。

今の例会をどのように思っているか、今後どのような例会を行いたいのか、今後の親睦について、どのような卓話を聴いてみたいのか、各会員が個々実践する職業奉仕・社会奉仕について、をテーマに、次年度の例会で実践してみたいと思いました。

皆さんいかがでしょうか？

会員維持増強部門

●本條次期地区・会員維持増強委員

当分科会は、梅原可奈子次期会員維持増強委員長の挨拶に続いて、三部構成で運営されました。

第一部「当地区の現状分析」では、橋本雅彦同副委員長より、次の通り報告がありました。

- ・ 現状、当地区のクラブ数は 70 クラブ、会員数はピークから 1,600 人 (38%) 減少して 2,550 人、クラブ当たりの平均会員数は 36.5 人、20 人以下のクラブが 16 クラブにのぼっている
- ・ 地区全体の平均年齢は 63.1 歳、50 歳未満会員は全体の 15%、平均年齢 70 歳以上が 6 クラブあり、最高齢クラブの平均年齢は 77.1 歳
- ・ 国内 34 地区中、当地区の特色は、①女性会員が少ない（女性ゼロが 24 クラブ、女性比率は国内最下位）、②夜間例会が多い（19%が夜間）、③人口比で会員が少ないこと
- ・ 日本ではお昼の例会が主流なのに対して、世界では 57%が夜間例会でお昼の例会は 34%と少数派
- ・ 日本でも 2009 年以降設立のクラブに限ると、お昼の例会は 30%にとどまり 59%が夜間例会、女性比率も 23%と世界平均に近い

第二部「DEI でクラブの活性化を図ろう」では吉井久美子次期 DEI 小委員長及び黒田建一同副委員長から、ロータリーがテーマに掲げる DEI の基本概念並びにクラブが DEI に取り組む意義について講話がありました。

第三部「オープン例会について」では、小職から「オープン例会」に関する基礎知識や参考資料の説明、並びに「常時オープン」化の推奨を行ったほか、川西 RC 及び姫路中央 RC の事例報告がありました。

おわりに小職から、そもそも Membership とは数の話ではなく、会員増強委員会の役割は、かけがえのないメンバー、即ち「ロータリーの友」をつくることに他ならない旨、申し添えて結びとしました。

職業奉仕部門

●高田次期職業奉仕委員長

第一部では、大内晋二次期職業奉仕委員長の講演が行われました。「最近のロータリーの問題状況を中心に」と題して、RI 理事会の職業奉仕に関する基本認識と、日本のロータリアンの考え方との距離が開いてきていることに対する危機感についてお話しされました。

大内委員長のスピーチ原稿の中から、私が大事だと思った部分を抜粋します。

「(RI によって) 職業奉仕の理念が背後に押しやられ、社会奉仕的にマニュアル化された側面だけが強調され拘束力を持つようになりました。(中略) ロータリーがロータリアンから寄付を集め、人道的支援・奉仕事業を行うことは反対すべきことではないでしょう。しかし、人道的支援・奉仕事業が成功することだけを目的化し、その寄付金をどのようにして稼いだのかに目をつむるとしたら、

それはロータリーとは言えません。ロータリーであるならば奉仕の理想を裏切ることにはできません。奉仕の理想の積極的表現である職業奉仕を座右の銘とする、それがロータリアンの生き方、人生のありかたではないでしょうか。」

第二部では、テーブルディスカッションが行われました。テーマは「あなたのクラブの過去の職業奉仕への取り組みで、特に伝えたいことはありますか?」「次年度の職業奉仕委員会にどのように取り組んでいく予定ですか?」でした。

私としては、大内委員長のお考えに賛同しますので、次年度の職業奉仕委員会は職業奉仕が実践されている個別事例を皆様と一緒に勉強できればと考えております。

社会奉仕部門

●喜多村次期社会奉仕委員長

1.社会奉仕活動について

クラブ会員の協力により、地域のニーズを検討し、クラブ会員の得意とする職業上の能力や趣味力を生かし、社会奉仕プロジェクトを立ち上げるよう検討いただきたい。

2.地区補助金事業について

地域社会が抱えるニーズや課題に対応するプロジェクトの計画・実施に当たり、ロータリーの支援制度としては、ロータリー財団の「地区補助金」や地区財源による「奉仕プロジェクト特別支援金」などがある。

3.プロバスクラブについて

発祥は 1966 年で、プロバスクラブとはクラブをリタイアもしくはセミ・リタイアした方々（プロビアン）のために、親睦と相互交流の目的で創立した自主独立のクラブ。

日本では 103 のクラブで約 2,700 人が活動している。県内では、昨年同様 24 クラブ、会員数は昨年の 281 人から 359 人（うち女性 99 人）に増えている。

4.公共イメージ委員会について

ロータリーがどのような団体で、どんな変化をもたらしているか等、ロータリー情報を世間、地域の皆様に正確に伝え、理解していただくこと。内外への発信は一朝一夕にはいかない、毎日の積み重ねが大事。

陰徳を積む＝ロータリーの美徳の一つ。

活動予定としては、(1)地区 SNS による活動の広報、(2)セミナーの実施（10/15 予定）、(3)マスメディアとの交流、など。

国際奉仕部門

●崎野次期社会奉仕（国際奉仕担当）副委員長

久しぶりに出席いたしましたが、ロータリーで馴染みの深い「慈愛」「奉仕」「実践」「継続」に加え、大きな世界的変化を経て「平和」「希望」「輝き」「DEI (Diversity, Equity, Inclusion)」という言葉が目新しく、新鮮な響きを得た協議会でした。

地区活動方針としては、次の 4 項目が掲げられています。

- ・ 国際奉仕プロジェクト推進のための効果的なセミナーの実施
- ・ グローバル補助金等を活用した多様な国際奉仕活動実施の支援
- ・ VTT、奨学金、平和フェローシッププログラムの支援

- ・ 国際奉仕月間プログラムへの協力

次年度は、平和と DEI を根幹として世界情勢理解に努めます。

青少年奉仕部門

- 森口次期社会奉仕（青少年奉仕担当）副委員長
（代理出席 伊藤会員）

当日の研修テーマは、以下の 5 項目でした。

1. インターアクトについて

インターアクトクラブ（IAC）は、ロータリークラブによるスポンサーのもと、12 歳から 18 歳までの青少年で構成される組織体。奉仕、国際理解、指導力育成に寄与する世界的な友好の精神の中で、共に活動する機会を提供することが目的。

1962 年に米国フロリダ州メルボルン・ハイスクールにおいて 23 人で結成されたのが始まりで、現在、世界 145 カ国、14,911 クラブ、342,952 人が活動。2680 地区では、26 クラブ、645 名が活動。提唱クラブは 20 クラブ。

2. RYLA について

COVID19 により一時中断していたが、昨年 3 月と今年 4 月に開催された。

RYLA（ロータリー青少年指導者養成プログラム）は、ロータリーが実施する若者たちのための研修プログラム。当地区は 2670 地区（四国）と合同開催。

3. 青少年交換について

各国のロータリークラブがスポンサークラブ、ホストクラブとなり、それぞれの地区の高校生の交換留学を行うプログラム。国際理解と平和の最高の推進力は、異文化を体験することにあるという基本的な理念のもと、世界平和に貢献する若者を世界中に広げることを目的としている。

4. ローターアクトクラブについて

18 歳以上の人々が集まって、地域社会のリーダーとの意見交換やリーダーシップと専門的なスキルを育みながら、楽しく奉仕活動を行うクラブ。運営、活動や奉仕プロジェクトの計画・実施を自ら決定し、スポンサーとなるロータリークラブが奉仕のパートナーとして指導・支援する。2019 年からローターアクトクラブは国際ロータリーの加盟クラブに含まれることになった。

5. 学友会について

インターアクト、ローターアクト、RYLA、青少年交換、ロータリー奨学金、ロータリー平和フェローシップ等のプログラムに参加した人たちから成るグループで、ロータリーとの繋がりを継続させることが目的。当地区では、ロータリー財団兵庫学友会、RYLA 学友会、青少年交換学友会、米山学友会（兵庫）が活動している。

ロータリー財団部門

- 森崎次期財団委員長
（代理出席 荻野会員）

1. 吉岡博忠ロータリー財団委員長より

- (1) ロータリー財団に寄せられた寄付金は、ウクライナ等のロータリークラブを通じて難民の支援が最も必要とされる場所で直接活用されている。

- (2) ロータリー財団は、チャリティーナビゲーターによる慈善団体の最高評価である 4 つ星を受けている (91%はプログラム運営費に使用されている)。

2.城 守環境の保護小委員長より

- (1) ロータリーの動向

昨年度、ロータリーの重点分野に「環境」が新たに加えられた。グローバル補助金対象の大型プロジェクトが可能に。

- (2) 当地区の地区補助金申請状況

環境に関する申請は 2022-23 年度、2023-24 年度、両年度とも 18 件中 1 件のみ。クラブへの情報提供と支援を通じて、クラブの環境プロジェクトを後押ししたい。

- (3) クラブへのお願い

各クラブで「環境」の担当委員会を決めて、奉仕プロジェクトを検討いただきたい。

3.宮岡督修ポリオプラス小委員長より

- (1) 活動するロータリー

100 万人以上のロータリー会員が、根絶活動を支援している。ポリオ感染リスクの高い海外の地域社会に赴いて予防接種活動に参加している。

- (2) 課題 (残る 0.1%との闘い)

ポリオを根絶するまでは世界中の国が再発生のリスクにさらされ、毎年 20 万もの新規患者が発生する可能性がある。

4.喜多美雄ロータリーカード推進小委員長より

- (1) ロータリーカードは、オリコカードとダイナースカード 2 種類。オリコカードを個人用、ダイナースカードをクラブ用と理解して頂ければよい。

※カード特典：ロータリー財団への寄付 (ポイント交換で)

- (2) 各クラブや各会員にロータリーカードを理解いただき、ポリオ寄付と DDF へのご協力の程よろしくお願いしたい。

5.秦 紳一郎補助金小委員長より

- (1) 財団資金の活用 (シェアシステム)

年次基金へ 1,000 ドル寄付の場合、①475 ドルが地区財団活動資金=DDF (→237.5 ドルが地区補助金、237.5 ドルがグローバル補助金へ)、②50 ドルが運営費、③475 ドルが国際財団活動資金=WF へ。

- (2) 地区補助金 (奉仕プロジェクト)

地元のニーズや課題に応えた小規模な予算のプロジェクトである。個別プロジェクトの採択権は地区に委ねられているので、各クラブの申請に柔軟に対応できる。

- (3) グローバル補助金

7 つの重点分野、長期的な影響をもたらす。

6.資金推進小委員会より

- (1) 寄付目標未達の実状

これまでは目標額に対してほとんど未達。寄付額が非常に厳しい状況。

- (2) 寄付額認証ポイントの有効活用をお願い

個人が取得した認証ポイントと、クラブが所有する認証ポイントがある。

- (3) 資金推進の工夫

クラブと会員の意識向上のため、100%ポール・ハリス・フェロークラブを目指しては。そのために、クラブ所有の認証ポイントを有効に使い達成を。

(4) ロータリー財団月間卓話

11月のロータリー財団月間には、地区委員による卓話派遣を行う。

米山記念奨学部門

●永富次期財団（米山担当）副委員長

公益財団法人ロータリー米山記念奨学金は、日本に在留している外国人留学生に対し、全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給して支援する民間の奨学団体です。

現在の状況は次の通り。

1.奨学生数

- ・ 全国：898人（新規 619人・継続 279人）
- ・ 地区：26人

2.一人当たりの平均寄付額

- ・ 全国：15,971円（うち普通寄付 4,920円、特別寄付 11,051円）
- ・ 地区：14,731円（うち普通寄付 4,712円、特別寄付 10,019円）

普通寄付：各クラブで決まった一人分の金額の会員数分の寄付

特別寄付：任意の寄付で、個人寄付、法人寄付、クラブ寄付がある（累積金額に応じて表彰制度あり）

幹事部門

●一色次期幹事

まず、若林 学次期代表幹事の開会挨拶に続き丸尾研一次期地区研修リーダー、及び古川彰治代表幹事より、幹事の役割についてお話しがありました。

幹事の仕事は、使命感、協力、気配り、目配り、お節介で、また、謙虚さと忍耐力が必要とのことでした。

事務局の雇用契約とクラブ細則は、実態と異なっている場合が多いので、必ず確認しておくこととのことでした。なお、龍野 RC は本條現会長が幹事だった頃から細則及び内規のテコ入れがなされ、その後も適宜見直しがなされていますので、私は GW 連休中に目を通して確認させて頂きました。

次に、「My ROTARY」の活用についてのご説明がありました。殆どの方は登録されているようでしたので、今回は有効的な活用方法を教えて頂きました。

最後に「DEIでクラブの活性化を実現しよう」と題して、吉井久美子次期 DEI 小委員長からお話しがありました。最近耳にすることが多くなりました横文字です。

D…Diversity（多様性）：モノには様々な違いがあること

E…Equity（公平さ）：単に等しく取り扱うのではなく、結果として同じ状況になるように努力すること ※下のイラストをご参照ください。

I…Inclusion（インクルージョン、包摂性）：①帰属感と、②違和感なくその集団の中にいることができること

DEI の行動規範はロータリー会員に以下のことを求めています。

- ・ 他者を尊重する言葉を使う
- ・ サポートを示す
- ・ 温かく迎えるインクルーシブな環境を助長する
- ・ 多様性を重んじる

